

表 7 QI を算出した事業所における利用者の平均年齢（居宅）

事業所名	平均年齢（歳）
A事業所（n=224）	80.2
B事業所（n=11）	86.1
C事業所（n=116）	81.1
D事業所（n=29）	79.7
E事業所（n=47）	83
F事業所（n=43）	85.1
G事業所（n=12）	73.8
I事業所（n=70）	82.3
K事業所（n=20）	82.7
O事業所（n=67）	82.3
R事業所（n=20）	83.3
居宅合計（n=659）	81.6

居宅の各事業所における利用者の平均年齢は 73.8 歳～86.1 歳であり、平均は 81.6 歳であった。

表 8 QI を算出した事業所における利用者の平均年齢（施設）

事業所名	平均年齢（歳）
J事業所（n=77）	86.1
L事業所（n=17）	85.4
M事業所（n=108）	85.0
N事業所（n=201）	84.2
P事業所（n=14）	83.7
施設合計（n=417）	84.8

施設の各事業所における利用者の平均年齢は 83.7 歳～86.1 歳であり、平均は 84.8 歳であった。

表 9 QI を算出した事業所における利用者の平均アセスメント期間（居宅）

事業所名	平均アセスメント期間（日）
A 事業所（n=224）	211
B 事業所（n=11）	159
C 事業所（n=116）	144
D 事業所（n=29）	212
E 事業所（n=47）	158
F 事業所（n=43）	151
G 事業所（n=12）	117
I 事業所（n=70）	162
K 事業所（n=20）	163
O 事業所（n=67）	123
R 事業所（n=20）	54
居宅合計（n=659）	169

居宅の各事業所における利用者の平均アセスメント期間は 54 日～212 日と開きが見られた。平均は 169 日であった。

表 10 QI を算出した事業所における利用者の平均アセスメント期間（施設）

事業所名	平均アセスメント期間（日）
J 事業所（n=77）	110
L 事業所（n=17）	176
M 事業所（n=108）	111
N 事業所（n=201）	51
P 事業所（n=14）	74
施設合計（n=417）	84

施設の各事業所における利用者の平均アセスメント期間は 51 日～176 日と開きが見られた。平均は 84 日であり居宅の約 1/2 の日数（居宅平均 169 日）であった。

表 11 分析対象である 2 時点のアセスメントのうち初回アセスメント基準日（居宅）

事業所名	～平成 25 年 12 月	平成 26 年 1 月～6 月	平成 26 年 7 月～12 月	平成 27 年 1 月～6 月	平成 27 年 7 月～12 月
A 事業所 (n=224)	0	0	59	158	7
B 事業所 (n=11)	0	0	5	6	0
C 事業所 (n=116)	0	2	31	62	21
D 事業所 (n=29)	0	0	15	12	2
E 事業所 (n=47)	0	0	14	22	11
F 事業所 (n=43)	1	0	6	24	12
G 事業所 (n=12)	0	0	1	8	3
I 事業所 (n=70)	0	0	26	36	8
K 事業所 (n=20)	0	0	11	9	0
O 事業所 (n=67)	0	0	14	35	18
R 事業所 (n=20)	0	0	0	7	13
居宅合計 (n=659)	1	2	182	379	95

居宅の各事業所における利用者の 2 時点あるアセスメントのうち初回アセスメント基準日は平成 27 年 1 月～6 月が 379 件、平成 26 年 7 月～12 月が 182 件、平成 27 年 7 月～12 月が 95 件、平成 26 年 1 月～6 月が 2 件、平成 25 年 12 月までが 1 件の順で多かった。初回アセスメント基準日には開きが見られ、最も古い初回アセスメントは平成 25 年 12 月までの 1 件（分析対象の 0.2%）であり、直近の初回アセスメントは平成 27 年 7 月から 12 月の 95 件（分析対象の 14%）であった。

表 12 分析対象である 2 時点のアセスメントのうち初回アセスメント基準日（施設）

事業所名	平成 26 年 7 月～12 月	平成 27 年 1 月～6 月	平成 27 年 7 月～12 月
J 事業所 (n=77)	29	29	19
L 事業所 (n=17)	2	15	0
M 事業所 (n=108)	22	47	39
N 事業所 (n=201)	26	79	96
P 事業所 (n=14)	0	9	5
施設合計 (n=417)	79	179	159

施設の各事業所における利用者の 2 時点あるアセスメントのうち初回アセスメント基準日は平成 27 年 1 月～6 月が 179 件、平成 27 年 7 月～12 月が 159 件、平成 26 年 7 月～12 月が 79 件の順で多かった。

表 13 ケアマネごとのアセスメントデータ入力数（居宅）

事業所名（ケアマネ人数） ／アセスメント入力数	1	2～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～	平均
A事業所（13人）	3	0	0	0	3	6	1	17.2
B事業所（6人）	2	4	0	0	0	0	0	1.8
C事業所（10人）	3	2	0	2	0	1	2	11.6
D事業所（3人）	0	0	2	1	0	0	0	9.7
E事業所（8人）	2	4	0	1	1	0	0	5.9
F事業所（7人）	3	1	1	2	0	0	0	6.1
G事業所（1人）	0	0	0	1	0	0	0	12
I事業所（5人）	1	0	1	1	0	1	1	14
K事業所（3人）	0	1	1	1	0	0	0	6.7
O事業所（5人）	0	1	0	2	1	1	0	13.4
R事業所（4人）	0	2	2	0	0	0	0	5
居宅合計（65人）	14	15	7	11	5	9	4	10.1

65名のケアマネの中で、11人以上のアセスメントデータを入力したのは、およそ半数の29人（44.6%）であった。なお、最少入力数は1、最多入力数は31、平均入力数は10.1であった。

表 14 ケアマネごとのアセスメントデータ入力数（施設）

事業所名（ケアマネ人数） ／アセスメント入力数	1	2～5	6～10	11～15	16～20	21～25	26～	平均
J事業所（32人）	20	9	2	0	1	0	0	2.4
L事業所（2人）	1	0	0	0	1	0	0	8.5
M事業所（68人）	46	22	0	0	0	0	0	1.6
N事業所（5人）	0	1	0	0	0	1	3	40.2
P事業所（2人）	0	1	1	0	0	0	0	7
施設合計（109人）	67	33	3	0	2	1	3	3.8

109名のケアマネの中で、11人以上のアセスメントデータを入力したのは、6人（5.5%）であった。なお、最少入力数は1、最多入力数は63、平均入力数は3.8であった。

表 15 分析対象とした利用者の要介護度の割合（居宅）

事業所名	現在有効な認定結果はない	軽度の割合	中度の割合	重度の割合
A事業所 (n=224)	0%	19%	45%	36%
B事業所 (n=11)	0%	45%	27%	27%
C事業所 (n=116)	1%	40%	37%	22%
D事業所 (n=29)	7%	7%	59%	28%
E事業所 (n=47)	0%	30%	55%	15%
F事業所 (n=43)	0%	16%	47%	37%
G事業所 (n=12)	0%	33%	33%	33%
I事業所 (n=70)	3%	29%	44%	24%
K事業所 (n=20)	5%	15%	70%	10%
O事業所 (n=67)	0%	43%	39%	18%
R事業所 (n=20)	0%	70%	30%	0%
居宅合計 (n=659)	1%	28%	44%	27%

※要支援 1, 2 および要介護 1 を軽度、要介護 2, 3 を中度、要介護 4, 5 を重度とした

居宅の各事業所における要介護度の割合は 6 事業所で中度の割合が最も多く、4 事業所で軽度の割合が最も多く存在した。重度の割合が多数を占める事業所は存在しなかった。また、要介護 4, 5 である割合は 0%～37%の開きがあり、平均は 15%であった。

表 16 分析対象とした利用者の要介護度の割合（施設）

事業所名	現在有効の認定結果はない	軽度の割合	中度の割合	重度の割合
J事業所 (n=77)	26%	14%	36%	23%
L事業所 (n=17)	0%	18%	24%	59%
M事業所 (n=108)	5%	1%	29%	66%
N事業所 (n=201)	0%	10%	51%	39%
P事業所 (n=14)	0%	21%	50%	29%
施設合計 (n=417)	6%	9%	41%	44%

※要支援 1, 2 および要介護 1 を軽度、要介護 2, 3 を中度、要介護 4, 5 を重度とした

施設の各事業所における要介護度の割合は 3 事業所で中度の割合が最も多く、2 事業所で重度の割合が最も多く存在した。軽度の割合が多数を占める事業所は存在しなかった。また、要介護 4, 5 である割合は 23%～66%の開きがあり、平均は 44%であった。

表 17 分析対象とした利用者の ADL 最大援助の割合（居宅）

事業所名	ADL 最大援助の割合	平均
A 事業所 (n=224)	25%	2.7
B 事業所 (n=11)	9%	2.2
C 事業所 (n=116)	20%	2.6
D 事業所 (n=29)	31%	3.2
E 事業所 (n=47)	11%	2.1
F 事業所 (n=43)	19%	3.1
G 事業所 (n=12)	8%	2.7
I 事業所 (n=70)	10%	1.7
K 事業所 (n=20)	20%	1.9
O 事業所 (n=67)	8%	2.2
R 事業所 (n=20)	0%	2.2
居宅合計 (n=659)	18%	2.5

※インターライ方式ケアアセスメントの項目から算出される ADL の自立度を示すスケール ADL-H(Activities of Daily Living Self-Performance Hierarchy Scale[日常生活自立段階]「0 自立～6 全面依存」の 7 段階)で 5 (最大援助) 以上の割合

居宅の各事業所における利用者の ADL 最大援助の割合は 0%～31%の開きがあり、平均は 18%であった。また、平均は 1.7 から 3.2 の開きがあり居宅事業所の平均は 2.5 であった。

表 18 分析対象とした利用者の ADL 最大援助の割合（施設）

事業所名	ADL 最大援助の割合	平均
J 事業所 (n=77)	57%	3.5
L 事業所 (n=17)	47%	3.6
M 事業所 (n=108)	57%	4.1
N 事業所 (n=201)	39%	3.4
P 事業所 (n=14)	43%	3.6
施設合計 (n=417)	48%	3.6

※インターライ方式ケアアセスメントの項目から算出される ADL の自立度を示すスケール ADL-H(Activities of Daily Living Self-Performance Hierarchy Scale[日常生活自立段階]「0 自立～6 全面依存」の 7 段階)で 5 (最大援助) 以上の割合

施設の各事業所における利用者の ADL 最大援助の割合は 39%～57%の開きがあり、平均は 48%であった。また、平均は 3.4 から 4.1 の開きがあり施設事業所の平均は 3.6 であった。

表 19 分析対象とした利用者の認知機能重度障害の割合（居宅）

事業所名	認知機能重度障害の割合	平均
A事業所（n=224）	4%	1.5
B事業所（n=11）	18%	2.6
C事業所（n=116）	9%	2.2
D事業所（n=29）	14%	2.4
E事業所（n=47）	9%	2.4
F事業所（n=43）	19%	3.0
G事業所（n=12）	17%	2.5
I事業所（n=70）	0%	1.4
K事業所（n=20）	0%	1.3
O事業所（n=67）	5%	2.0
R事業所（n=20）	10%	2.5
居宅合計（n=659）	7%	1.9

※認知機能の評価を行うスケール CPS(Cognitive Performance Scale [認知機能尺度]
「0 障害なし～6 最重度の障害がある」の7段階)で5（重度の障害がある）以上の割合

居宅の各事業所における利用者の認知機能重度障害の割合は 0%～19%の開きがあり、平均は 7%であった。また、平均は 1.3 から 3.0 の開きがあり居宅事業所の平均は 1.9 であった。

表 20 分析対象とした利用者の認知機能重度障害の割合（施設）

事業所名	認知機能重度障害の割合	平均
J事業所（n=77）	14%	2.4
L事業所（n=17）	88%	4.8
M事業所（n=108）	22%	3.4
N事業所（n=201）	13%	2.8
P事業所（n=14）	29%	3.3
施設合計（n=417）	19%	2.9

※認知機能の評価を行うスケール CPS(Cognitive Performance Scale [認知機能尺度]
「0 障害なし～6 最重度の障害がある」の7段階)で5（重度の障害がある）以上の割合

施設の各事業所における利用者の認知機能重度障害の割合は 13%～88%の開きがあり、平均は 19%であった。また、平均は 2.4 から 4.8 の開きがあり施設事業所の平均は 2.9 であった。

表 21 分析対象とした利用者のうつの疑いの割合（居宅）

事業所名	うつの疑いの割合	平均
A 事業所 (n=224)	12%	0.8
B 事業所 (n=11)	46%	2.3
C 事業所 (n=116)	16%	1.1
D 事業所 (n=29)	55%	2.8
E 事業所 (n=47)	26%	1.9
F 事業所 (n=43)	14%	0.8
G 事業所 (n=12)	33%	2.5
I 事業所 (n=70)	7%	0.5
K 事業所 (n=20)	5%	1.1
O 事業所 (n=67)	21%	1.4
R 事業所 (n=20)	40%	2.8
居宅合計 (n=659)	18%	1.2

※うつの評価を算出するスケール DRS(Depression Rating Scale[うつ評価尺度])で
3 以上(うつに関する問題を抱えている可能性がある)

居宅の各事業所における利用者のうつの疑いの割合は 5%～55%の開きがあり、平均は 18%であった。また、平均は 0.5 から 2.8 の開きがあり居宅事業所の平均は 1.2 であった。

表 22 分析対象とした利用者のうつの疑いの割合（施設）

事業所名	うつの疑いの割合	平均
J 事業所 (n=77)	23%	1.4
L 事業所 (n=17)	82%	5.2
M 事業所 (n=108)	40%	2.6
N 事業所 (n=201)	26%	2.0
P 事業所 (n=14)	29%	1.8
施設合計 (n=417)	32%	2.2

※うつの評価を算出するスケール DRS(Depression Rating Scale[うつ評価尺度])で
3 以上(うつに関する問題を抱えている可能性がある)

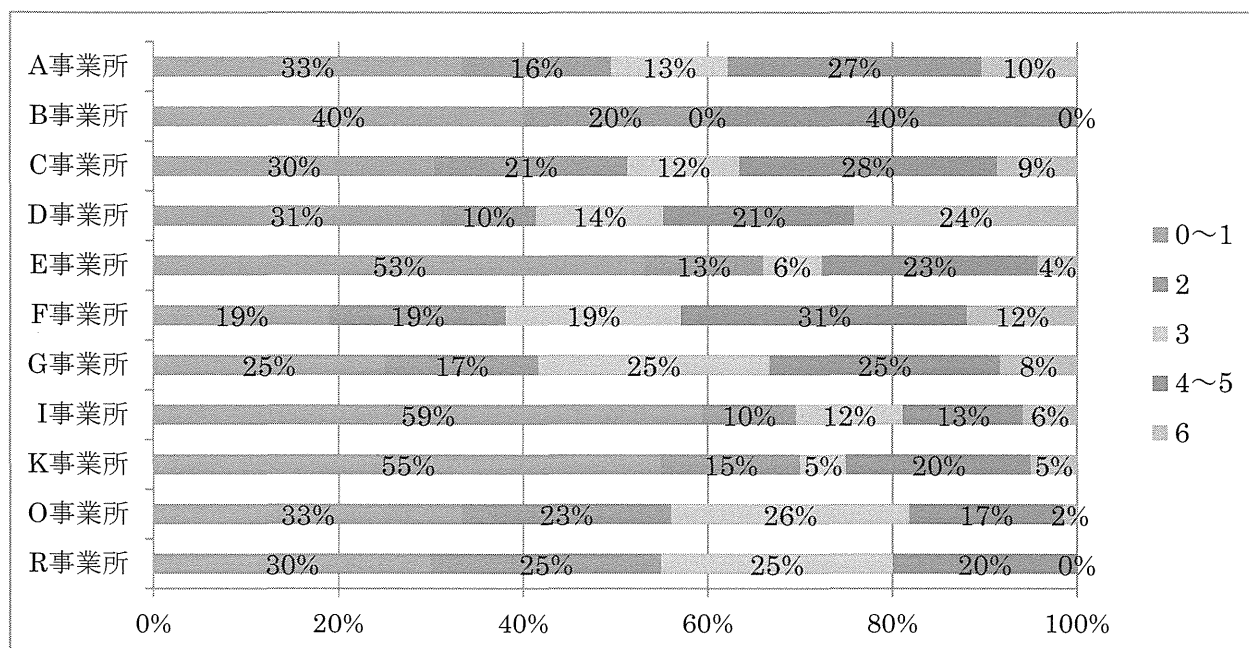
施設の各事業所における利用者のうつの疑いの割合は 23%～82%の開きがあり、平均は 32%であった。また、平均は 1.4 から 5.2 の開きがあり施設事業所の平均は 2.2 であった。

表 23 居宅の QI および施設で算出した QI

居宅の QI	施設の QI
ADL の改善	○
ADL の悪化	
尿失禁の悪化	
尿失禁の改善	○
認知障害の悪化	
認知障害の改善	
コミュニケーション障害の改善	○
コミュニケーション障害の悪化	
転倒	○
IADL の改善	
IADL の悪化	
外傷の発生	○
気分の落ち込み	○
気分の改善	○
痛みのコントロールが不十分	
痛みの改善	
重度の痛み	○
介護者のストレスの継続	
孤独	
外出日数の減少	
インフルエンザワクチン未接種	
入院	
体重減少	○

層別化のためには各事業所で最低 20 人以上の利用者が該当する必要があるが、ダウンロードしたアセスメントデータでは 20 人以下の事業所が存在したため、層別化の工程は省略して QI を算出した。また、施設版 QI についてはプログラムコードが開発途中であるため居宅版 QI プログラムを用いて算出可能な 9 の QI のみを示す（表 23）。

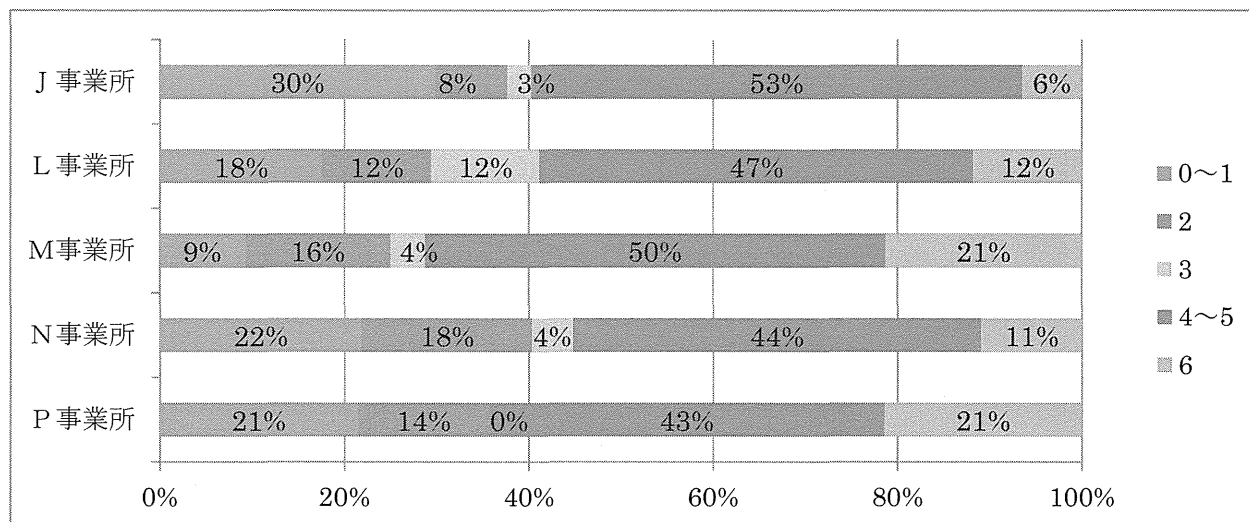
表 24 分析対象とした ADL-H の事業所別割合（居宅）



※層別化はインターライ方式ケアアセスメントマニュアルに基づいて行った

居宅の各事業所における ADL-H の割合では 3 事業所で過半数の利用者が 0~1 を選択していた。一方、10%以上の利用者が 6 を選択している事業所も 3 ヶ所存在した（表 24）。

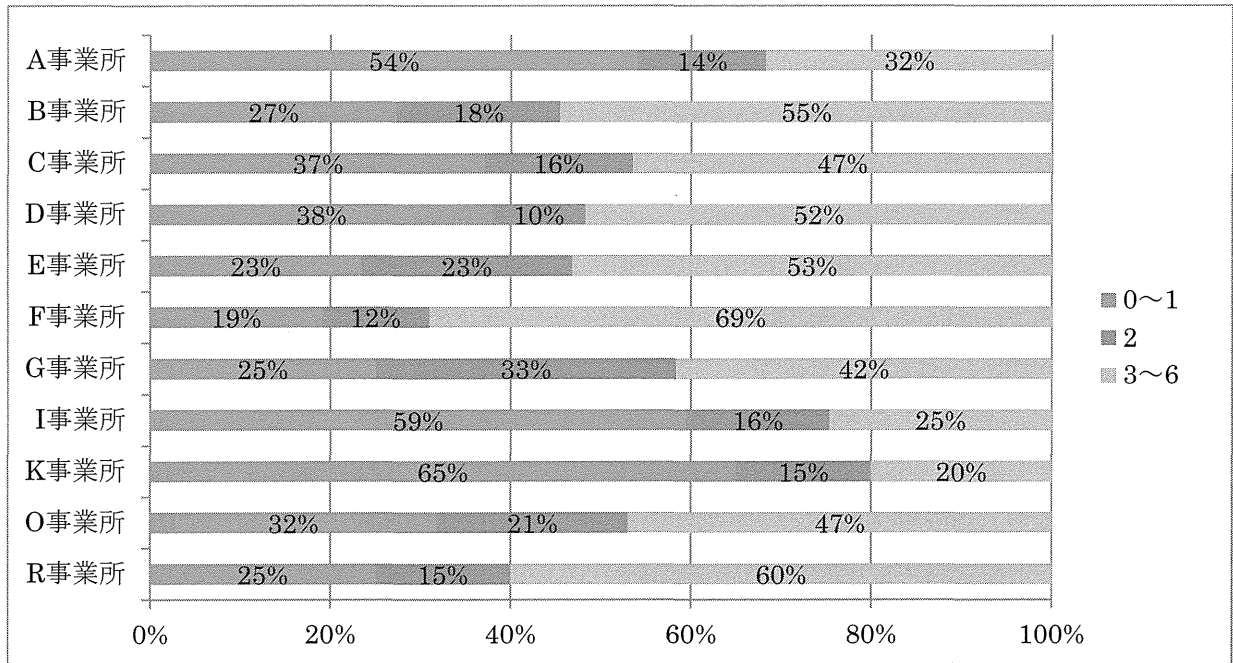
表 25 分析対象とした ADL-H の事業所別割合（施設）



※層別化はインターライ方式ケアアセスメントマニュアルに基づいて行った

施設の各事業所における ADL-H の割合では 0~1 を選択した利用者は最大 30%にとどまっていた。一方、10%以上の利用者が 6 を選択している事業所は 4 ヶ所存在した（表 25）。

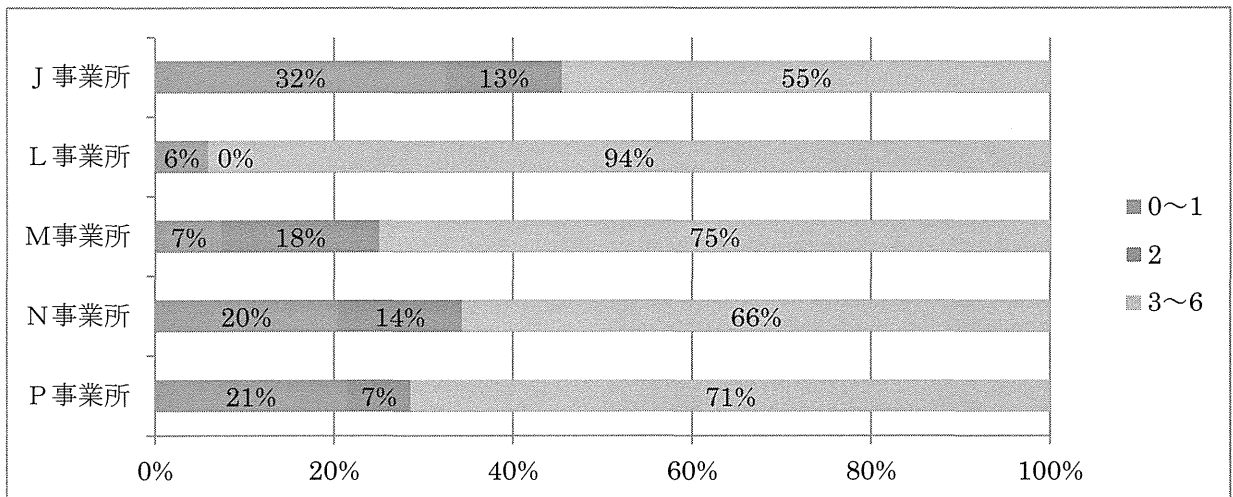
表 26 分析対象とした CPS の事業所別割合（居宅）



※層別化は、CPS 得点 2 が「境界的」であることに基づいて行った

居宅の事業所における CPS の割合では 3 事業所で過半数の利用者が 0~1 を選択していた。一方で 3~6 を選択した利用者が過半数を占める事業所も 5 ヶ所存在した（表 26）。

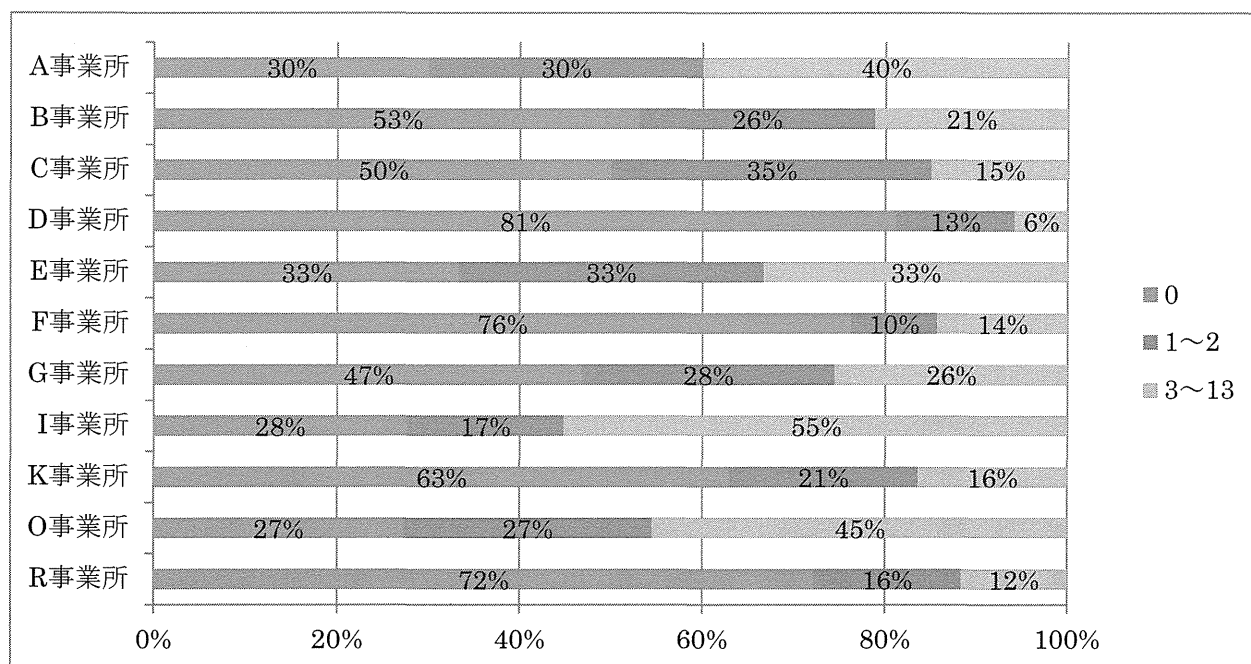
表 27 分析対象とした CPS の事業所別割合（施設）



※層別化は、CPS 得点 2 が「境界的」であることに基づいて行った

施設の事業所における CPS の割合ではすべての事業所で 3~6 を選択した利用者が過半数を占めていた（表 27）。

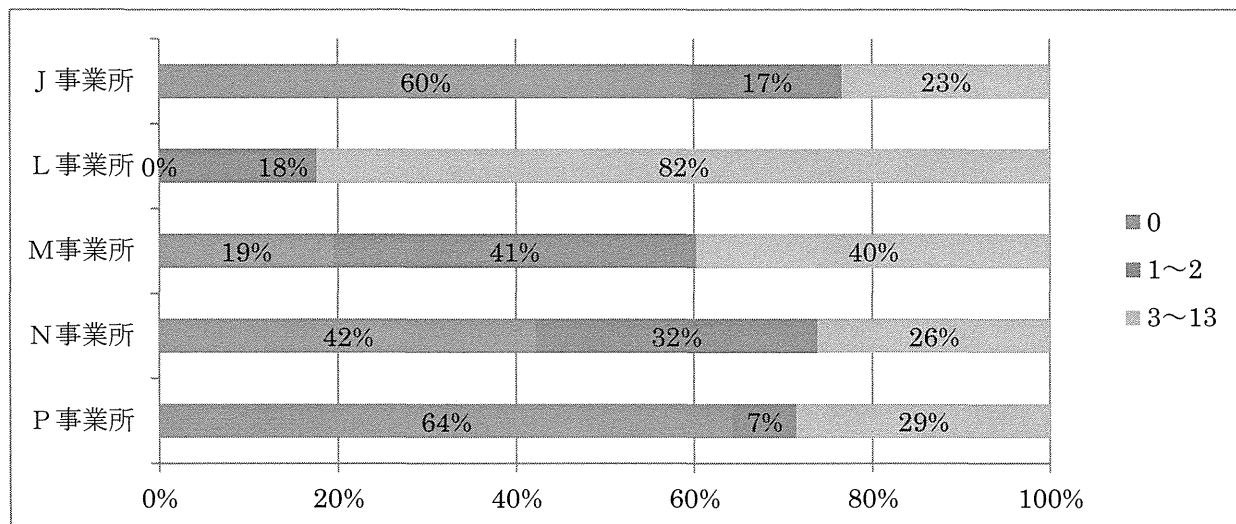
表 28 分析対象とした DRS の事業所別割合（居宅）



※層別化は、DRS 得点 3 以上が「うつの疑いあり」であることに基づいて行った

居宅の事業所における DRS の割合では 6 事業所で過半数の利用者が 0 を選択していた。一方で 3~13 を選択した利用者が過半数を占める事業所も 1 ヶ所存在した（表 28）。

表 29 分析対象とした DRS の事業所別割合（施設）



※層別化は、DRS 得点 3 以上が「うつの疑いあり」であることに基づいて行った

施設の事業所における DRS の割合では 2 事業所で過半数の利用者が 0 を選択していた。一方で 3~13 を選択した利用者が過半数を占める事業所も 1 ヶ所存在した（表 29）。

(6) QI の算出

まず、23 の QI の実測値を事業所ごとに算出した。居宅、施設における各 QI の事業所平均を図 3、図 4 に示した。ただし QI ごとにリスク調整に必要なアセスメント項目は異なるため、用いることのできたアセスメントデータの数は異なる。

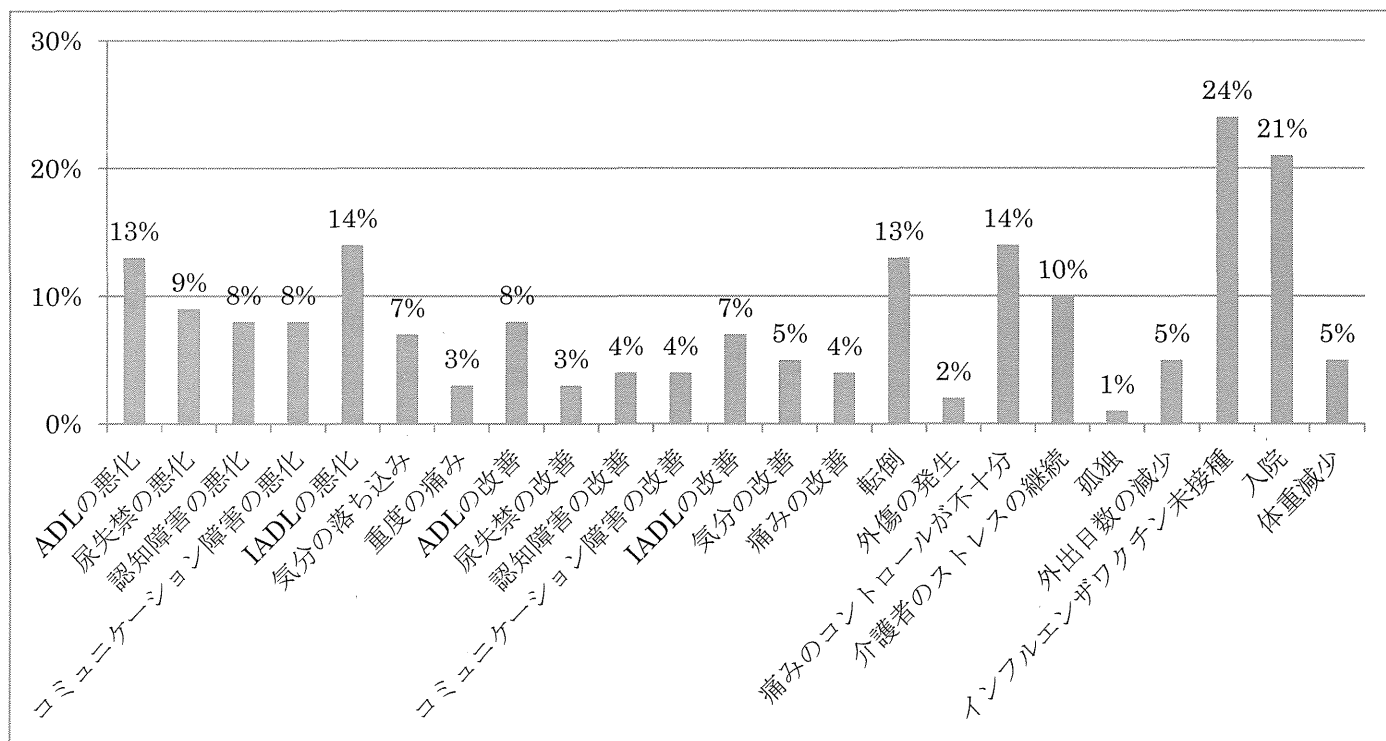


図 3 居宅の各 QI 全体平均

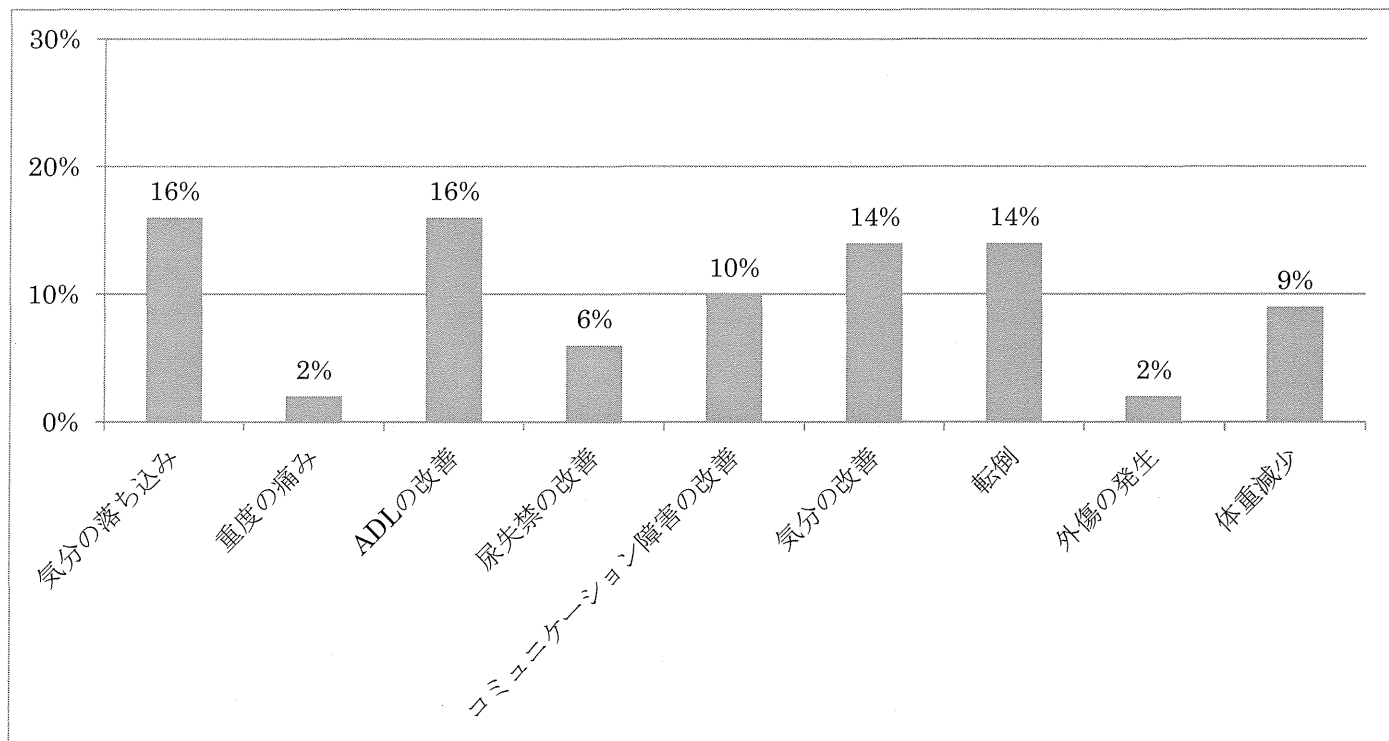


図 4 施設の各 QI 全体平均

① 全体の概要

表 30 悪化、改善、その他の QI

	悪化の QI	改善の QI	その他の QI
ADL の改善		○	
ADL の悪化	○		
尿失禁の悪化	○		
尿失禁の改善		○	
認知障害の悪化	○		
認知障害の改善		○	
コミュニケーション障害の改善		○	
コミュニケーション障害の悪化	○		
転倒			○
IADL の改善		○	
IADL の悪化	○		
外傷の発生			○
気分の落ち込み	○		
気分の改善		○	
痛みのコントロールが不十分			○
痛みの改善		○	
重度の痛み	○		
介護者のストレスの継続			○
孤独			○
外出日数の減少			○
インフルエンザワクチン未接種			○
入院			○
体重減少			○

各 QI を悪化の QI、改善の QI、その他の QI に分類した（表 30）。悪化の QI とその他の QI については全体平均より低い程、悪化の割合が低く、改善の QI では全体平均より高い程、改善の割合が高い。

次に QI 予測値と補正值を算出した。各事業所の QI 算出人数を表 31 に示す。

表 31 各事業所の QI 算出人数

事業所名	居宅／施設	QI 算出人数
A 事業所	居宅	224
B 事業所	居宅	11
C 事業所	居宅	116
D 事業所	居宅	29
E 事業所	居宅	47
F 事業所	居宅	43
G 事業所	居宅	12
I 事業所	居宅	70
K 事業所	居宅	20
O 事業所	居宅	67
R 事業所	居宅	20
J 事業所	施設	77
L 事業所	施設	17
M 事業所	施設	108
N 事業所	施設	201
P 事業所	施設	14
居宅合計		659
施設合計		417

② QI の分布（棒グラフ）

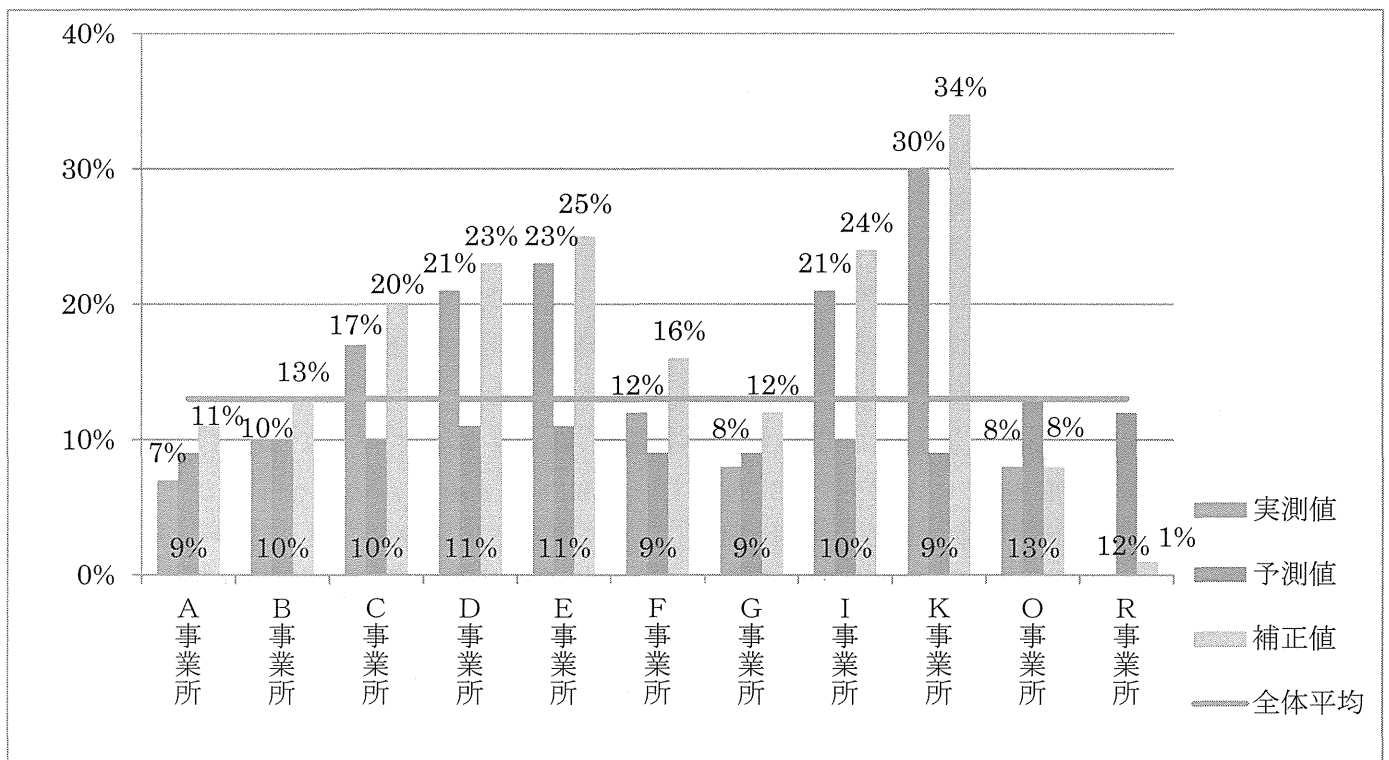
居宅における 23 の QI の実測値、予測値および補正值を算出した（図 5 から図 27）。また、施設における QI については算出可能な 9 の QI のみを算出した（図 28 から図 36）。なお、それぞれの QI において各事業所に該当者が存在しない場合はその事業所の部分は表示されない。このうち、実測値が同値でも補正值が異なる例、実測値と補正值が逆転する例、実測値は異なるが補正值が同値である例の 3 例を居宅と施設のそれぞれで示すと以下のとおりである。

実測値が同値でも補正值が異なる例として、居宅では図 5 の ADL の悪化（居宅）において G 事業所の実測値は O 事業所と同じ値だが（8%）、補正值は G 事業所（12%）の方が O 事業所（8%）よりも高い値を示した。同様に施設では図 34 の転倒（施設）において J 事業所の実測値は N 事業所と同じ値だが（17%）、補正值は J 事業所（29%）の方が N 事業所（24%）よりも高い値を示した。

また、実測値と補正值が逆転する例として、居宅では図 8 のコミュニケーション障害の悪化（居宅）において B 事業所の実測値（20%）は I 事業所（17%）より高いが、補正值は B 事業所（18%）よりも I 事業所（20%）の方が高い値を示した。同様に施設では図 30 の ADL の改善（施設）において P 事業所の実測値（23%）は L 事業所（18%）より高いが、補正值は P 事業所（22%）よりも L 事業所（24%）の方が高い値を示した。

さらに、実測値は異なるが補正值が同値である例として、居宅では図 22 介護者のストレスの継続（居宅）において G 事業所の実測値（17%）は F 事業所（12%）より高いが、補正值は G 事業所と F 事業所で同じ値（17%）を示した。同様に施設では図 32 コミュニケーション障害の改善（施設）において M 事業所の実測値（7%）は N 事業所（5%）より高いが、補正值は M 事業所と N 事業所で同じ値（9%）を示した。

悪化の QI (居宅)



※R事業所は該当者が存在しない為、実測値は表示されない

図5 ADLの悪化(居宅)

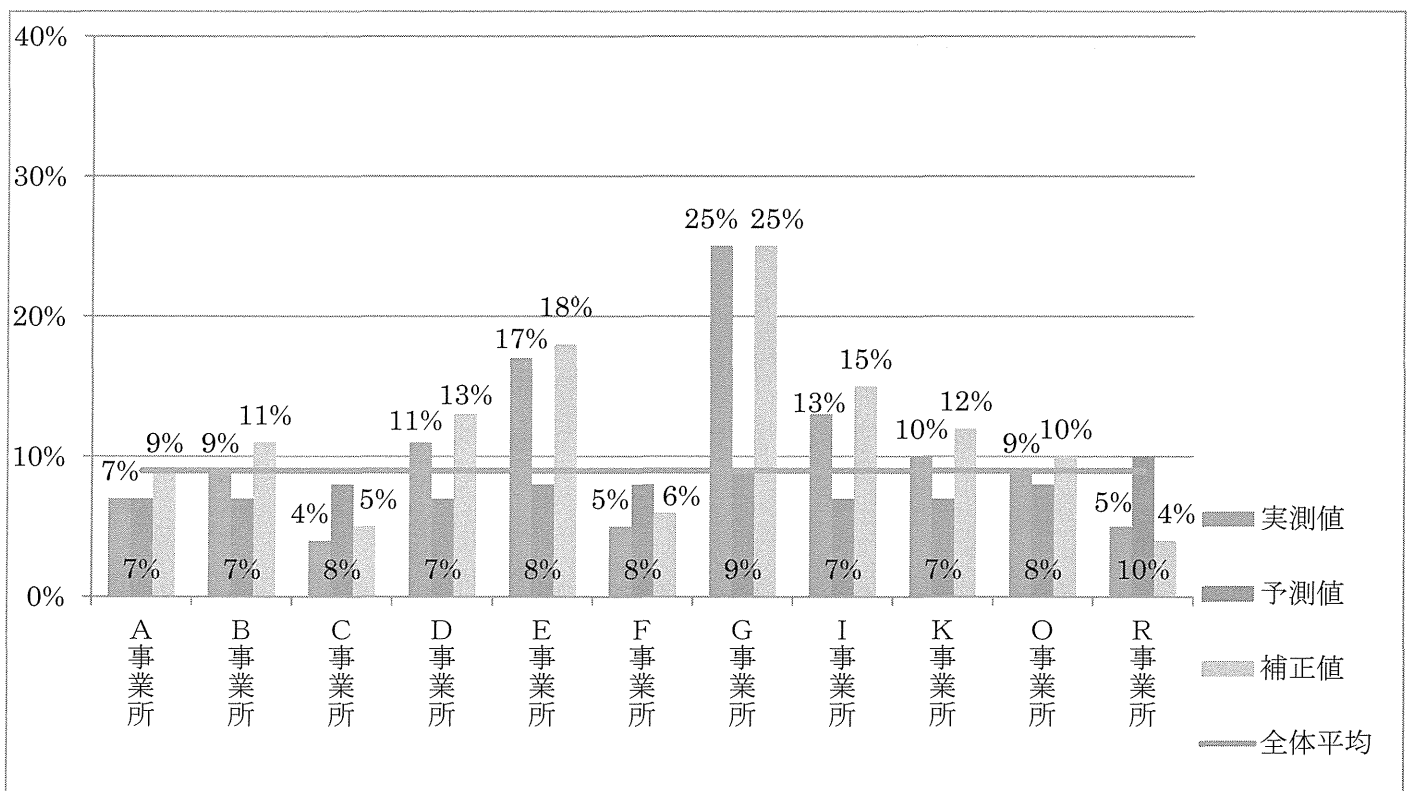
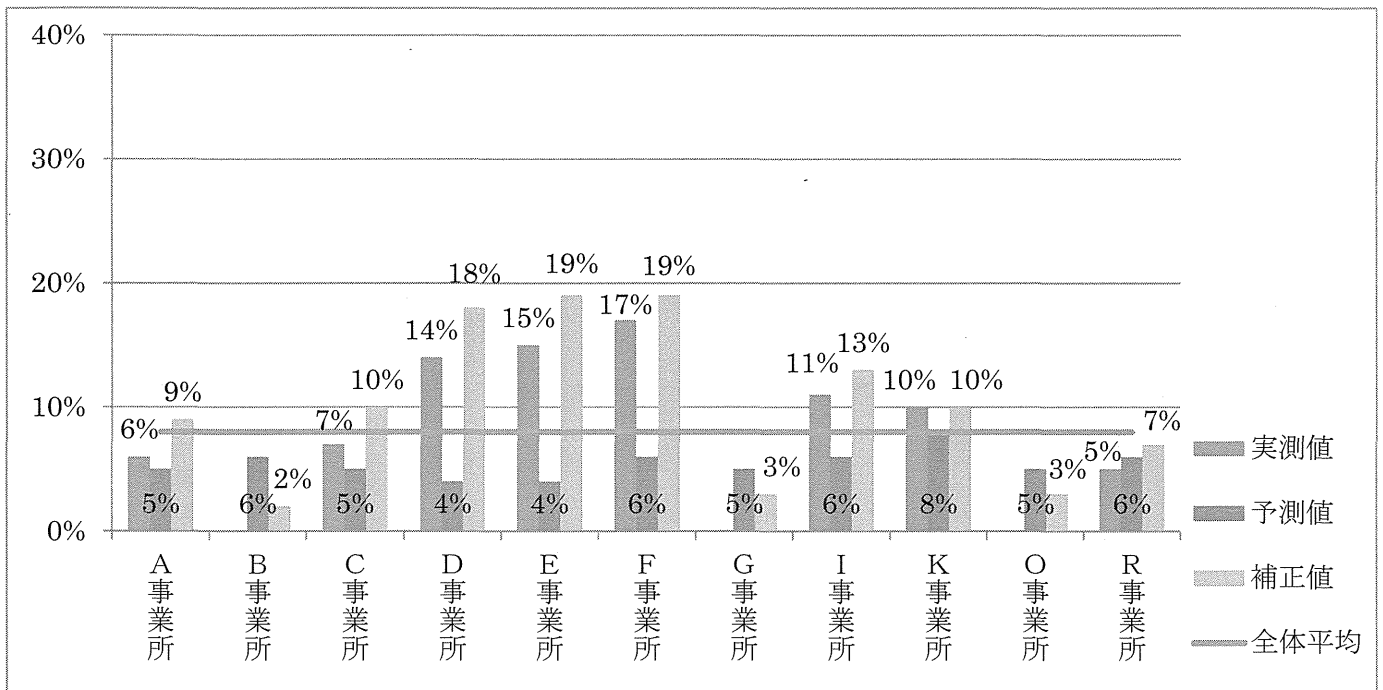


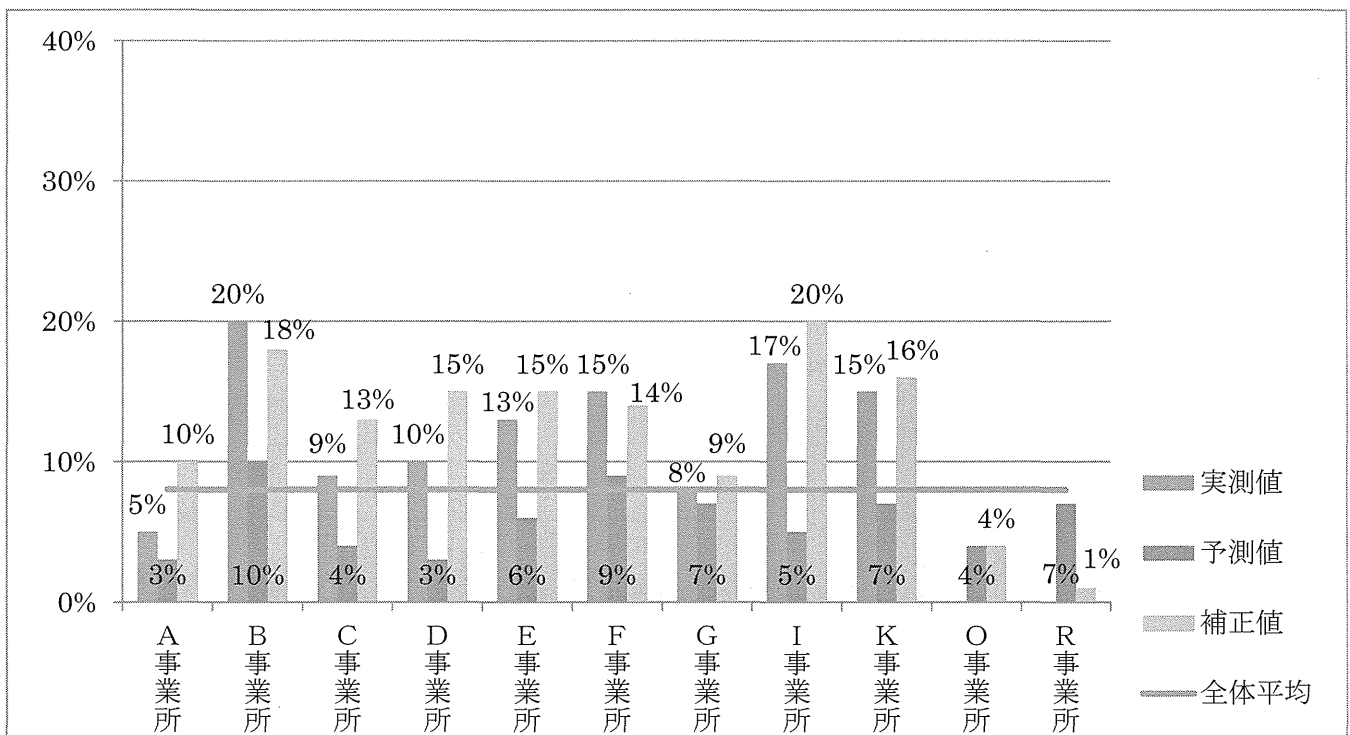
図6 尿失禁の悪化(居宅)

悪化の QI (居宅)



※B 事業所、G 事業所、O 事業所は該当者が存在しない為、実測値は表示されない

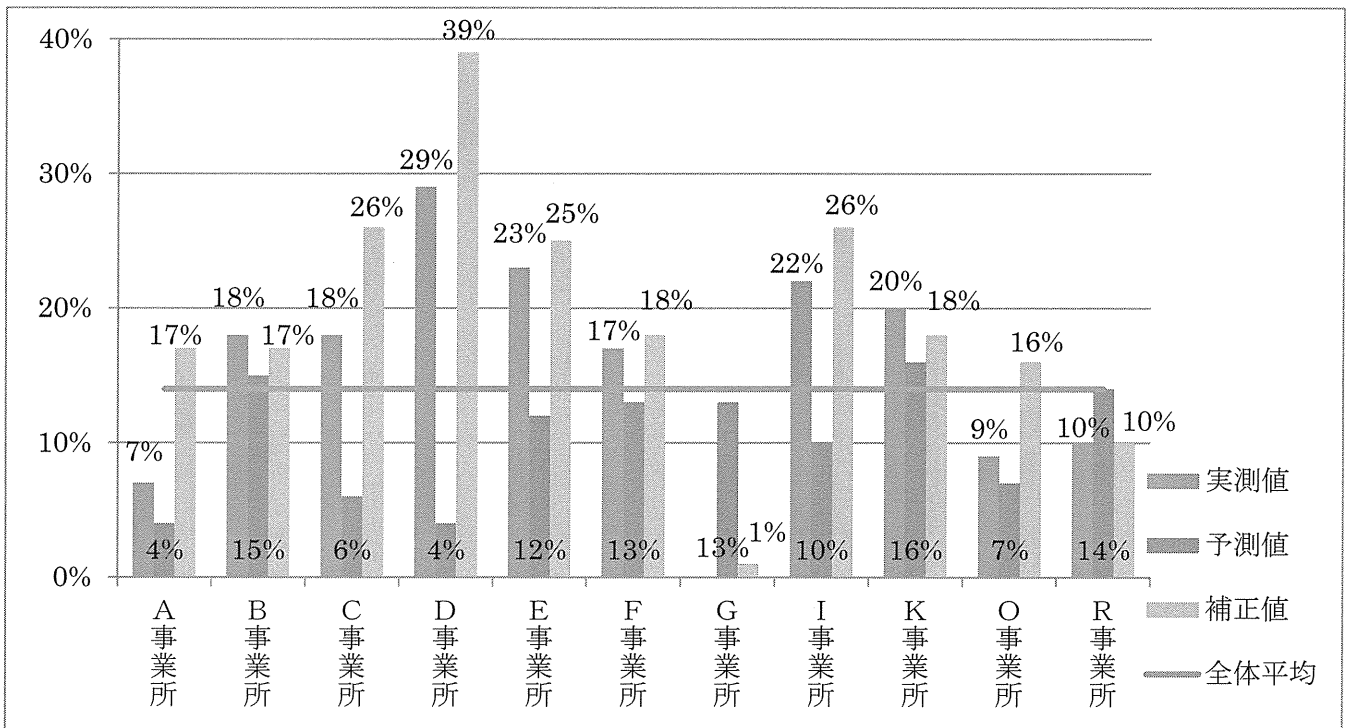
図 7 認知障害の悪化 (居宅)



※O 事業所、R 事業所は該当者が存在しない為、実測値は表示されない

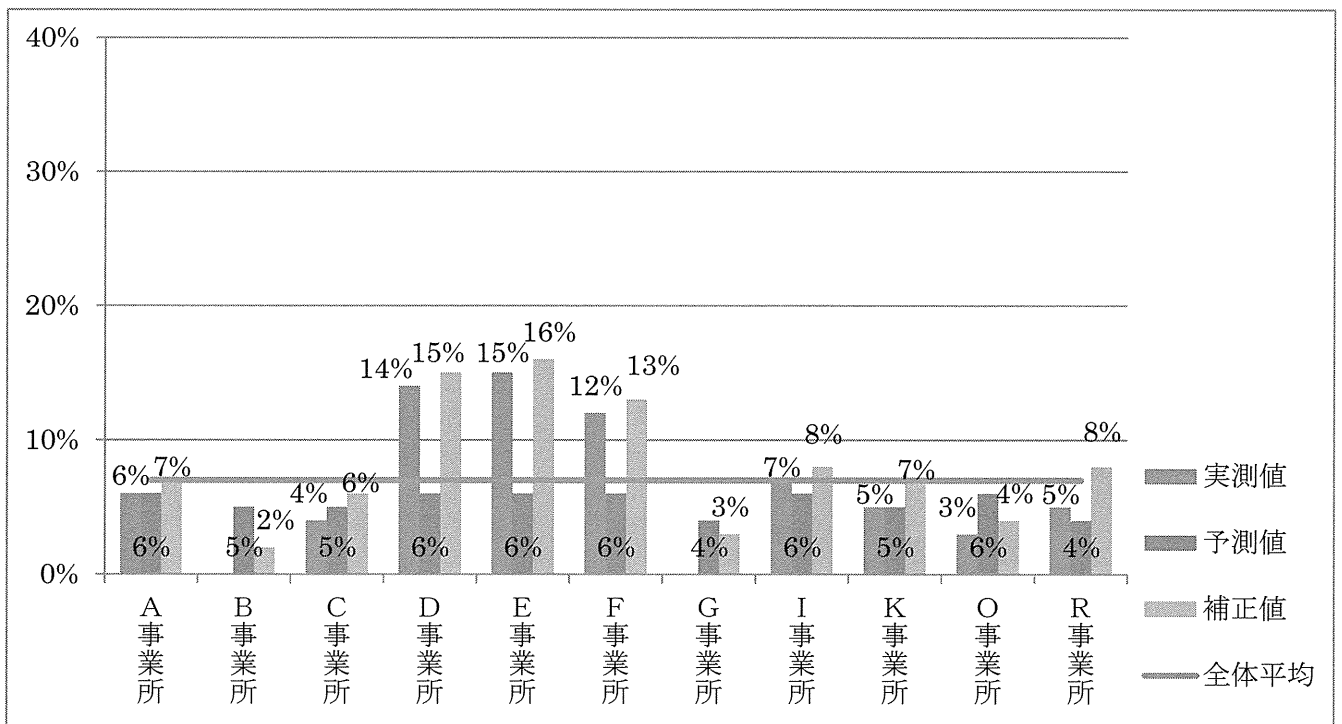
図 8 コミュニケーション障害の悪化 (居宅)

悪化の QI (居宅)



※G事業所は該当者が存在しない為、実測値は表示されない

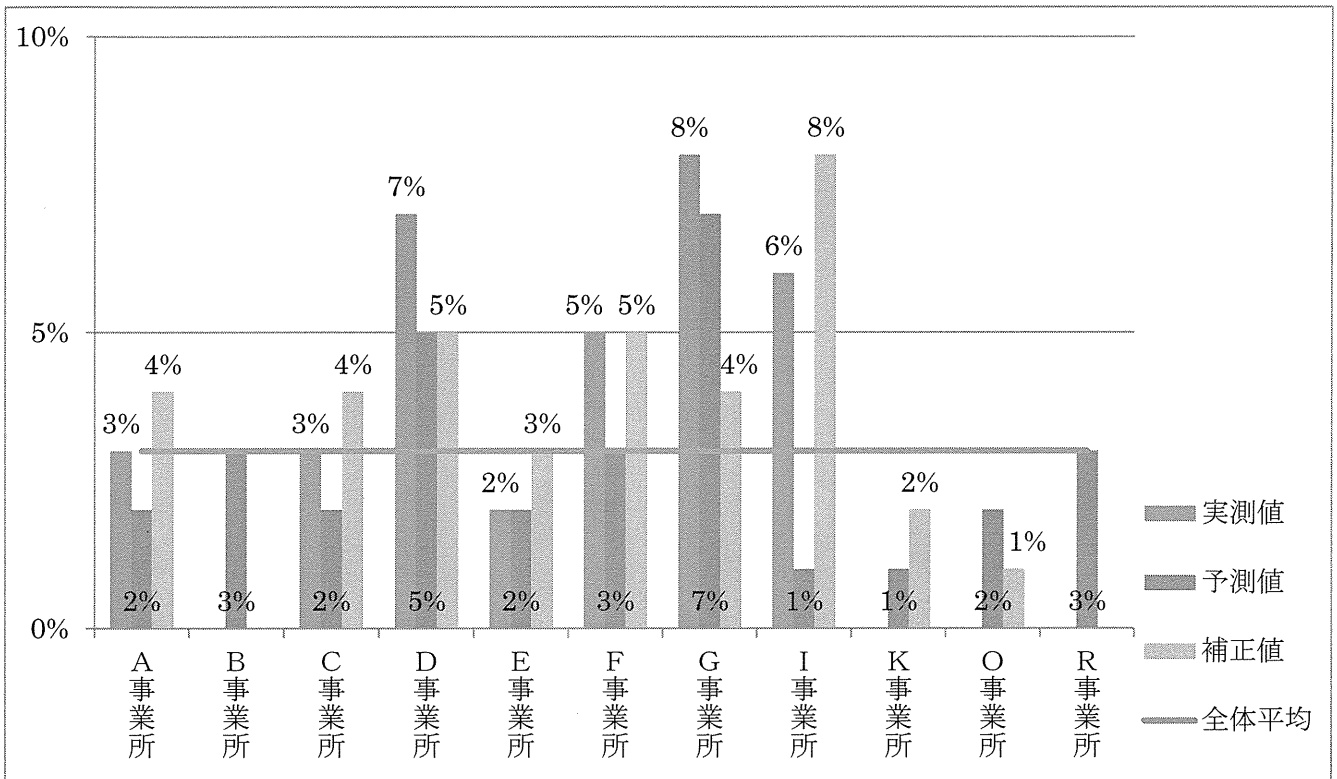
図9 IADLの悪化(居宅)



※B事業所、G事業所は該当者が存在しない為、実測値は表示されない

図10 気分の落ち込み(居宅)

悪化の QI (居宅)



※B事業所、K事業所、O事業所、R事業所は該当者が存在しない為、実測値は表示されない

図 11 重度の痛み (居宅)